



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

Western Pacific Colloids Meeting 2015 (WPC2015) に参加して

はじめに

コロイドおよび界面化学部会の主要な国際交流行事の1つに、日豪シンポジウムがあります。本年度7月号の本欄にも紹介があるように、これはコロイド・界面化学に関連する日豪の研究者の交流を目的に、1992年に開始されたものです。現在はほぼ2年に一度の割合で、日本とオーストラリアで交互に開催され、日本では秋に行われるコロイドおよび界面化学討論会に組み入れられています。これまでのこのシンポジウムを通じた密な交流により、両国の研究者間には、研究を超えた個人的なつながりがいくつも醸成されています。

14回目となる今回のシンポジウムは、オーガナイザーのVincent Craig先生（オーストラリア国立大学）の「オセアニア・東南アジアを含む国際会議へ発展させよう」との発案により、今までと少し趣を変え、名称をWestern Pacific Colloids Meetingとして、カンボジア・シェムリアップで2015年11月15日～19日に行われました。

学会の様子

シェムリアップは、世界遺産で名高いアンコール・ワット、アンコール・トムなどのアンコール遺跡群の観光拠点となっている都市です。そのアンコール遺跡にほど近いリゾートホテルを会場とし、約70名が参加して行われました。日本



参加者の集合写真

からは30名ほどが参加し、松下祥子先生（東工大）と水上雅史先生（東北大）が基調講演を務められました。オーストラリアのほかには中国、韓国、台湾、ニュージーランド、遠くはサウジアラビアなど、多彩な国からの参加がありました。会の規模としては大きくないのですが、交流や議論には非常に適したサイズであり、どの研究発表にも一体感のある非常に活発かつ熱心な議論が展開されていたのが印象的でした。また、リゾート地とあって会場の雰囲気はとてもリラックスしており、休憩や昼食時には、研究に関する議論の続きだけでなく、参加者同士の情報交換や個人的交流が和やかに行われている姿が頻繁に見かけられました。

研究発表以外の行事も充実しており、カンファレンスディナーではカンボジアの古典舞踊が披露され、参加者が一緒に

踊りに加わる一幕もありました。もちろんアンコール遺跡への見学ツアーは目玉であり、ほぼ全員が参加してアンコール・ワット、アンコール・トムの精緻な浮き彫りで埋め尽くされた壮大な建築を堪能しました。これらのアクティビティを通して、参加者同士の交流もさらに深めることができた、素晴らしい会議であったと思います。



見学ツアーでの筆者

今後の展開

今後の展開としては、今年9月に旭川で開催されるコロイドおよび界面化学討論会で国際セッションが予定され、オーストラリアをはじめ国外からの参加を呼びかけることになっています。このように交流がさらに継続・発展することで、この日豪シンポジウムをベースとした、コロイド界面分野におけるオセアニア・アジア地域の国際交流が、今後より広がっていくことが大いに期待されます。

〔国際交流委員会 石田尚之（岡山大学）〕

© 2016 The Chemical Society of Japan